

## 管理基準の考え方について

道路建設が地下水変動に及ぼす影響を把握するため、地下水位の変動に着目

## 1. 第1帯水層の地下水位変動の傾向

別紙-1

- 管理対象となる第1帯水層の地下水位は、概ね横ばいもしくは上昇傾向(平成12年以降)

## 2. 管理基準の基本的な考え方

- 第1帯水層の地下水位について、以下の考え方で管理

- ① 工事前に測定された最低水位
- ② 工事前の降雨時・無降雨時の水位変動とは異なった変動

(参考) 東京メトロ南北線で自然教育園の自然環境保全のために実施している地下水モニタリングも同様に管理

## 3. 管理方法

- 管理対象の観測孔については、リアルタイムにモニタリングし、その他の観測孔は1ヶ月毎にデータ収集整理

## 4. 管理箇所

- 既存の観測孔に加え、今後トンネル付近に既設観測孔を基準に約500mピッチ、第1帯水層を通過する南側坑口付近は約250mピッチで設置する観測孔で地下水位を観測

- 上記の内、管理する観測孔は、以下のエリアから選定

別紙-2

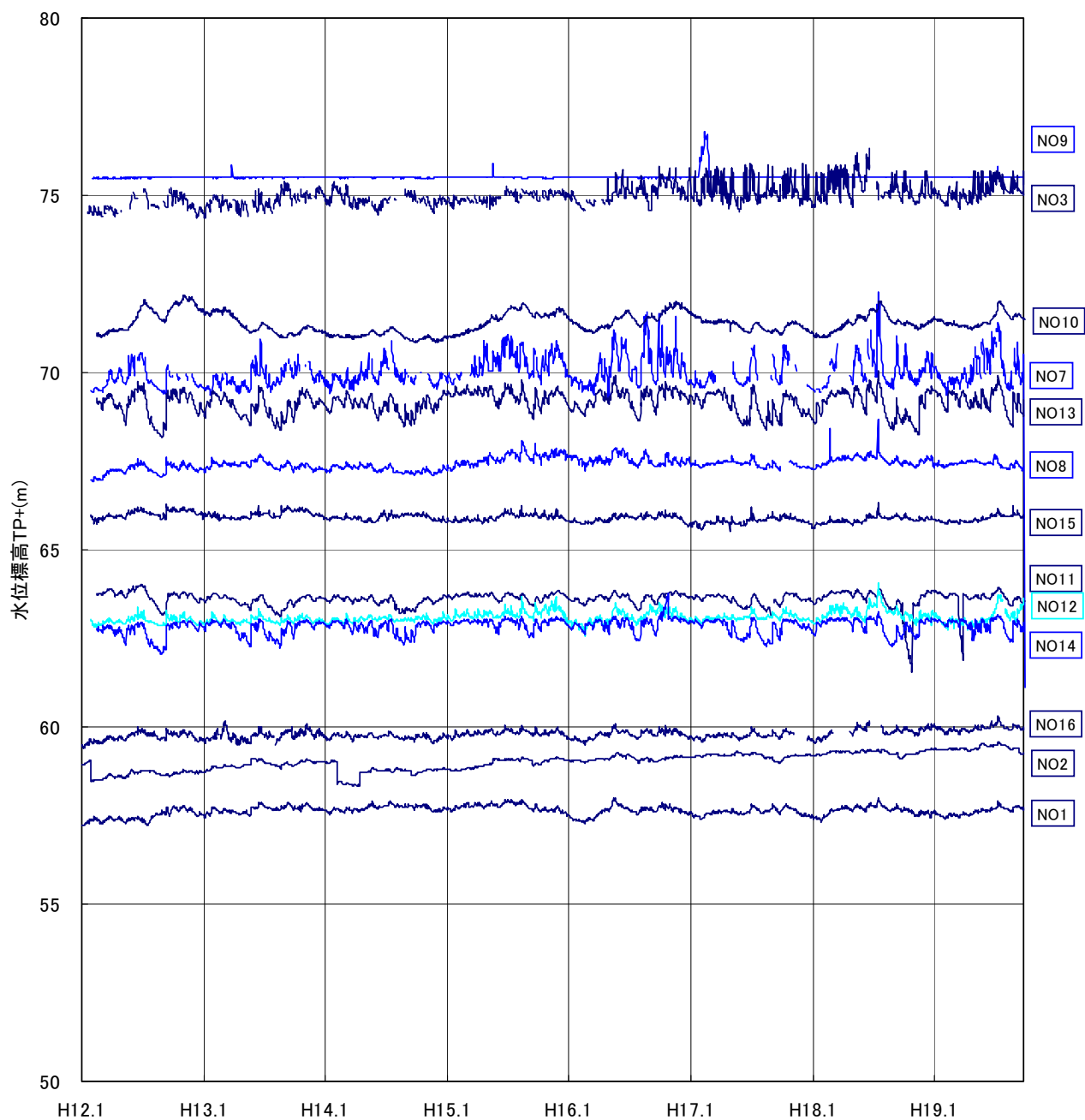
- ① 道路建設が第1帯水層へ影響すると考えられる南側坑口付近
- ② 南側坑口付近から平城宮跡までのエリア
- ③ 平城宮跡付近

## 5. 管理体制

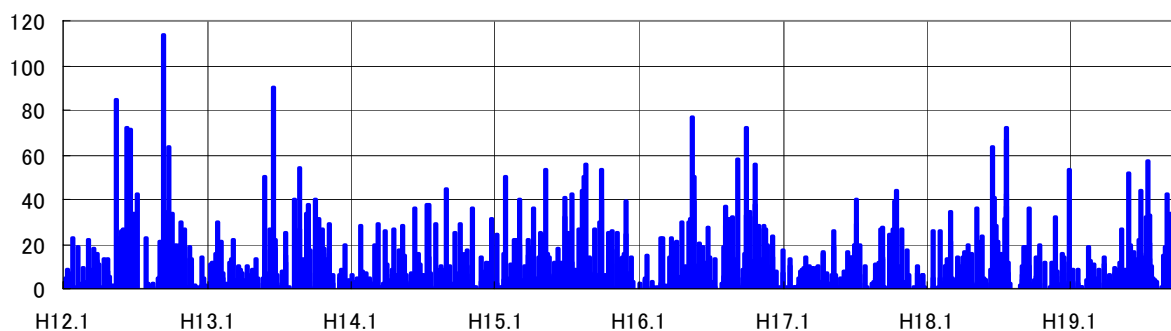
- ・観測孔の観測値が管理基準値を勘案し、異常が懸念される場合、学識経験者に報告
- ・エリア全域の観測結果等を含め、原因把握
- ・工事の影響でなければ、引き続き地下水位変動を監視、工事の影響が懸念される場合は、緊急対策実施

## 第1帯水層地下水位の経年傾向

□ 第1帯水層地下水位の経年傾向は、観測開始の平成12年以降、  
現在まで、概ね上昇もしくは横ばい傾向



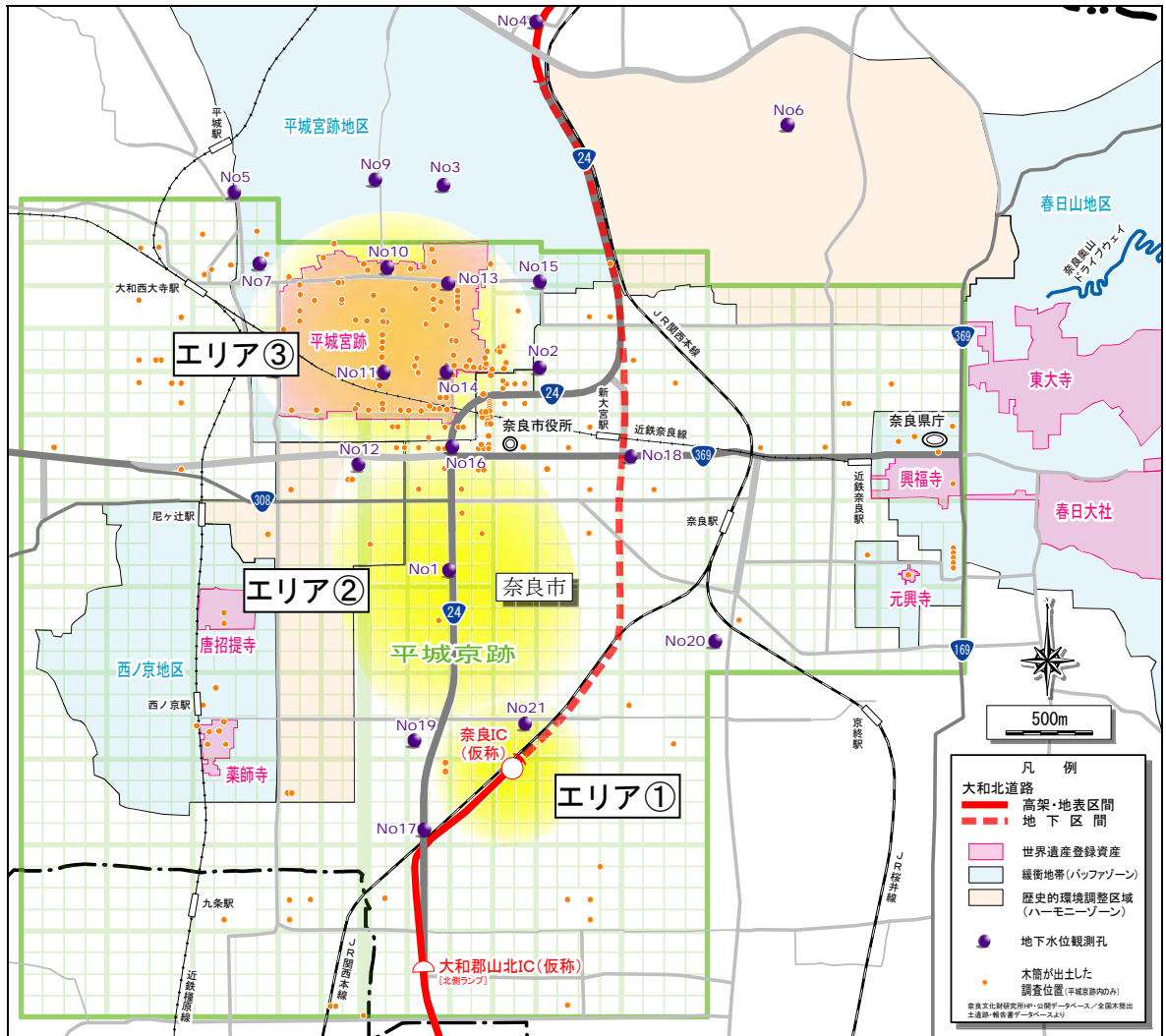
■ 日降水量(mm/日)



## 管理箇所

□管理する観測孔は、以下のエリアから選定

- ① 道路構造物が第1帯水層へ影響すると考えられる南坑口付近
- ② 南側坑口付近から平城宮跡までのエリア
- ③ 平城宮跡付近



- ・管理箇所以外の観測孔についても、モニタリングは継続して実施し、管理箇所でも異常が懸念される場合、それらの観測結果を確認することで、原因や影響範囲を特定